

	テーマ	内容	連携診療科 (医科)	対象疾患
臨床	歯科疾患の精査・加療	入院患者の歯科疾患 (歯痛、義歯不具合など) に対する治療を歯科外来または病棟往診にて行なっています。	各医科系診療科	歯科疾患
	周術期口腔ケア	全身麻酔下で手術を受ける患者さんに対し、手術前後の口腔内を清潔にするケアを行なっています。口腔内を清潔に保つことは、術後合併症の予防や術後発熱を減少させ、術後の入院日数を短縮につながります。	各種外科系診療科	全身麻酔下手術対象疾患
	マウスピース	全身麻酔下で手術を受ける患者さんに対し、手術前に気管挿管時のマウスピースが必要かどうかを査し、必要に応じて作製しています。マウスピースを使用することにより気管挿管時の歯の破折や脱落を予防でき、医療事故防止につながります。また、口腔からの内視鏡的切除術の際にも、歯牙や口腔粘膜損傷を防止する目的で、マウスピースを作製しています。	各種外科系診療科	全身麻酔下手術対象疾患
	化学療法における口腔支持療法	化学療法中の口腔内有害事象である口腔粘膜炎や口腔乾燥、味覚障害、歯肉感染症の増悪に対して、事前の口腔ケアやセルフケア指導を含めた総合的口腔内管理、マネジメントを実施しています。	各種化学療法実施診療科	悪性腫瘍
	造血幹細胞移植における口腔支持療法	造血幹細胞移植前の口腔内精査から、移植後に一般歯科医院での加療が可能となるまでの口腔内管理・マネジメントを実施しています。さらに合併症である慢性移植片対宿主病(GVHD)の口腔内症状への対応やセルフケア指導を含め、総合的に対応しています。また、血液内科の科内カンファレンスと総回診、チーム回診へ参加し、入院中の患者に関する情報収集と積極的な口腔内情報の共有に努め、より適切な口腔支持療法の提供を行なっています。	血液内科	造血幹細胞移植
	頭頸部がんサロボード	得意分野の異なる医科・歯科複数の診療科が集まり、多診療科参加型の合同カンファレンスを行なっています。ガイドラインに基づいた議論を行うことで、診断精度の向上と、診断から治療、そして治療後の機能回復および経過観察の一連の流れを円滑に行い、患者さんの希望にそったより良い治療が提供できるように努めています。	頭頸部腫瘍センター	頭頸部腫瘍
	頭頸部腫瘍放射線治療症例における口腔支持療法	頭頸部腫瘍の放射線治療、特に頸骨を照射野に含む場合には、①放射線性頸骨壊死を予防するための歯科疾患の精査と抜歯のマネジメント、②放射線性口腔粘膜炎に対する支持療法、③放射線性口腔乾燥症に対する支持療法を実施しています。また、かかりつけ歯科医へ情報提供により地域歯科との連携も行なっています。小線源治療を行う患者に対しては、頸骨への照射量を低減させるスペーサーを作製しています。	耳鼻咽喉・頭頸部外科 放射線治療科	頭頸部腫瘍
	コンピューター支援下手術による頸骨再建	口腔がんや頸骨壊死などで頸骨の切除を必要とする症例では、コンピューター支援下にシミュレーションを行い最適化した3次元モデルを作製し、これに基づいて手術を行うことで、術後の形態・審美性および機能の改善が図られ、QOLの向上に寄与しています。また、術前に正確な顎間関係を再現するための3Dシミュレーションによるサージカルガイドを作製し、手術直後には即時の治療用義歯の製作を行います。術後の咬合回復のために顎義歯、インプラント顎義歯 (保険診療)、さらにエビテーゼの製作を行なっています。	耳鼻咽喉・頭頸部外科 形成外科	①口腔がん ②頸骨壊死
	口腔がんの手術・薬物療法および放射線治療	口腔がん症例の手術・薬物療法や放射線治療では、複数の科と合同で診察と手術・処置、および管理を行うことでより精度の高い治療を目指し、健康寿命の向上を図ることを目指しています。	放射線治療科、腫瘍内科 耳鼻咽喉・頭頸部外科	口腔がん
	唇顎口蓋裂センター	口蓋裂・口蓋裂をはじめとする頭蓋顔面部の先天性疾患の治療は多くの医療関係者が協力して進める必要があります。当センターでは、出生前から成人に至るまで一貫した医科・歯科合同のチーム医療を実施し、合同カンファレンスや共同研究を通して治療結果の向上に努めています。	形成外科、産科、小児科 耳鼻咽喉・頭頸部外科、 遺伝科、言語治療室 他	口唇裂・口蓋裂
	合同手術	顔面多発骨折の手術では複数の科が合同に手術、処置および管理を行うことで精度の高い治療を提供することで、審美的・機能的な回復に寄与しています。特に、歯並びの専門的知識のもとに、整復の位置を決めるためのスプリントを製作しています。	形成外科	顔面外傷
	嚥下治療センター	摂食嚥下の評価により各職種連携の効率化、摂食の向上、誤嚥性肺炎の予防を行っています。嚥下リハビリテーションのための嚥下補助装置 (PAP) の作製、義歯の製作を行なっています。	嚥下治療センター	摂食嚥下障害
	嚥下ボード	種々の頭頸部疾患や嚥下障害を引き起こす病状に対して、多職種間での合同カンファレンスを行い、口腔頭頸領域を含む全身の評価と原因の解明、治療方針の検討、食事から薬剤、リハビリテーションを含む多角的かつ総合的な治療を行なっています。	耳鼻咽喉・頭頸部外科 肢体不自由リハビリテーション科、看護部、薬剤部、 栄養サポートチーム (NST)	頭頸部疾患 嚥下障害
	閉塞型睡眠時無呼吸症 (OSA) に対する歯科的対応	口腔内装置の適応のOSA患者 (主に軽症) に対し、口腔内装置を用いた治療を、診査から装置製作・装着、タイトレーション後、装置の効果判定依頼までの一連を連携して行なっています。CPAPのコンプライアンス不良患者に対し、CPAPと口腔内装置の併用による治療効果改善も試みています。	呼吸器内科 耳鼻咽喉・頭頸部外科	閉塞型睡眠時無呼吸症 (OSA)
	口腔機能低下症/オーラルフレイルと全身疾患の関連の探索	口腔機能低下症やその段階で口腔の虚弱を意味する「オーラルフレイル」を早期に診断すべく、「かむ」「はなす」「のみこむ」等に関する最新の口腔機能検査を行い、診断を行なっています。特に医科と歯科が緊密に連携して進めており、新たな全身疾患・状態との関連探索を行い、必要に応じて治療的介入を行なっています。	眼科、循環器内科、皮膚科、 整形外科など	口腔機能低下症 オーラルフレイル
	有病児歯科管理	全身疾患や成長発達の問題を有する小児患者に対し、歯科的治療や歯予防管理を行なっています。特に悪性腫瘍や心臓疾患の治療または移植医療を受ける小児患者の口腔内感染源の除去による術後の合併症予防に努めます。歯科受診された小児に遺伝性の疾患や発育ならびに全身状態に問題が疑われる際には、関連科に紹介し、疾患の早期発見・早期治療に繋げられるようにしています。	小児系診療科 (小児科、小児腫瘍科、遺伝科) 総合外科 小児外科グループ	小児悪性腫瘍、心疾患、臓器移植 内分泌疾患、遺伝性疾患 他 精神・運動発達障害
	顔面形態や咬合からの先天性疾患の診断	顔面形態や咬合からの各種先天性疾患の診断を行なっています。	小児科	先天性疾患
	顔面非対称の診断	片側性の冠状縫合早期閉鎖に伴う顔面非対称の診断を行なっています。	形成外科	顔面非対称
	骨粗鬆症治療薬使用前診査	ステロイド使用の副作用としてステロイド性骨粗鬆症が上げられます。骨粗鬆症予防薬には、歯の疾患や歯が原因で顎骨骨髄炎を引き起こすことがあります。その様な薬を使用する前に、問題となる歯があるかどうか歯科的に精査し、必要に応じた治療も行なっています。	吸器内科、リウマチ膠原病内科、腎・高血圧・内分泌科、 循環器内科、皮膚科、眼科、 脳神経内科、血液内科、 腫瘍内科、消化器内科、整形外科	ステロイド使用対象疾患
	各専門領域の画像診断	歯科からのオーダーで撮影した患者の顎口腔領域以外の部位の画像を医科の放射線診断科の先生も診断に協力し、逆に医科からのオーダーの患者であっても、顎口腔領域の異常に関しては歯科の画像診断医も診断に協力しています。お互いの専門領域を診断することで、よりハイレベルな画像診断レポートを作成しています。	放射線診断科	各種疾患
頭頸部画像カンファレンス	頭頸部領域の疾患に対して、放射線診断科と顎口腔画像診断科が画像診断に関する合同カンファレンスを行うことで、双方の専門的知識を持ち寄り精度の高い画像診断を行なっています。	放射線診断科	頭頸部疾患	
味覚障害の診断と治療	味覚障害の原因は、全身疾患、耳鼻科的疾患、口腔疾患など多岐にわたります。味覚検査によって、味覚障害程度を判明させるとともに、味覚障害原因が口腔・歯科的疾患によるか否かを歯科的に精査し、必要に応じた治療も行なっています。一方、原因が耳鼻科的・または糖尿病などの内科的である可能性が検査で判明した場合、お互いの専門領域での治療を連携して行なっています。	耳鼻咽喉・頭頸部外科、 消化器内科、糖尿病代謝科	味覚障害	
シェーグレン症候群の診断と治療	シェーグレン症候群には、全身の膠原病を併発するものがあります。診断を確定するために血液検査、下唇小唾液腺生検、唾液量測定、唾液腺の画像検査、眼科的検査などの精査が必要で、歯科では、下唇小唾液腺生検、唾液量測定、唾液腺の画像検査を行い、各科と連携して確定診断を行なっています。さらに、必要に応じ、シェーグレン症候群による口腔乾燥症治療も行なっています。	リウマチ膠原病内科、 脳神経内科、皮膚科、 糖尿病代謝科	シェーグレン症候群	
教育	口腔健康教室	糖尿病と歯周病は相互関係があることから、糖尿病検査入院中の患者に対して、糖尿病と歯周病との関係や口腔健康保持増進の意義等を説明する健康教育、啓発活動を行なっています。	糖尿病代謝科	糖尿病
研究	マルファン症候群と歯周炎	マルファン症候群の歯周病リスクとその治療効果を検証しました。マルファン症候群では、心臓血管外科の手術を受けた直後は歯周病のリスクが高いため、定期的な口腔ケアが必要であることが分かりました。	心臓血管外科	歯周病
	炎症性腸疾患遠隔診断技術の開発	唾液を用いた炎症性腸疾患の遠隔診断技術の開発を、共同研究で進めています。	消化器内科	炎症性腸疾患
	乳がん患者の骨転移・骨関連事象に関する呼吸・口腔環境の解析研究	乳がん患者の骨に關係した症状と呼吸 (はまだした息) 代謝産物・口腔環境について調べており、頸骨壊死を含めた骨の有害事象を予防するための共同研究を行なっています。	総合外科	乳がん
	内分泌疾患やホルモン療法が顎骨骨密度に与える影響	続発性骨粗鬆症と顎骨の骨密度との関連を明らかにする共同研究を開始しています。	総合外科、血液内科	骨代謝に関連する 内分泌疾患・薬物使用対象疾患
	がんと口腔細菌	各種がんの治療開発を目的とし、口腔内細菌とがんとの関連を明らかにする共同研究を行なっています。	婦人科、総合外科	がん
	乳がん患者の骨転移・骨関連事象に関する呼吸・口腔環境の解析研究	乳がん患者の骨に關係した症状と呼吸 (はまだした息) 代謝産物・口腔環境について調べており、頸骨壊死を含めた骨の有害事象を予防するための共同研究を行なっています。	総合外科	がん
	舌がん密封小線源治療におけるスペーサーの放射線低減効果に関する研究	口腔がんの密封小線源治療時に使用するスペーサーの内部に放射線感受性フィルムを設置して、実際の密封小線源治療中の口腔内線量分布を計測し、効果的に頸骨への照射量を低減させるスペーサーを作製し、放射線性頸骨壊死のリスク低減を目指しています。	放射線治療科	口腔がん
磁気刺激装置の有効性の検証	口腔機能低下症に該当する患者に対し、磁気刺激装置を利用した舌骨上筋群への誘導収縮を与え、舌骨上筋量の変化を探索することで磁気刺激装置の有効性の検証を行なっています。	耳鼻咽喉・頭頸部外科、 肢体不自由リハビリテーション科	口腔機能低下症	